

腎炎ラットにおよぼす運動の影響について

宮沢 広文，山口 正司

国立病院医療センター，小児科

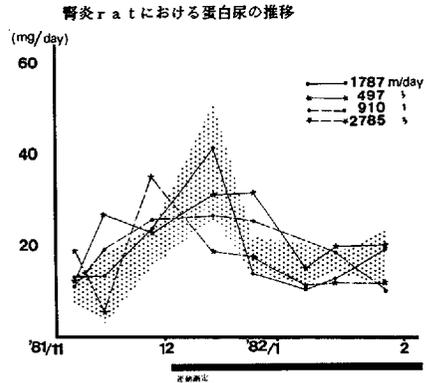
慢性腎炎の運動管理については，まだ不明な点が多い。近年，ある程度の運動は，必ずしも慢性腎炎へ悪影響はおよぼさないとも言われてきている。

そこで我々は，腎炎ラットの運動測定を行い，腎炎にどの様に運動が影響するかを検討している。アミノヌクレオシド腎炎（ネフローゼ症候群→FGS）のモデルを用いて若干の結果を得たので報告する。

対象及び方法：腎炎ラットの作成は6週年令，ウィスターラット，雄，8匹にプロマイシン（アミノヌクレオシド） $1\text{mg}/100\text{g}$ 体重，21日間，腹腔内注射した。この期間，ラットは $24\times 34\text{cm}$ 四方のケージで飼い，プロマイシン中止後，10日目より，蛋白尿の明らかな増加を確認した。4匹は，運動測定器の中で飼い，運動は自由に行われた。実験期間中の総運動量が測定できる様にした（運動測定群）。又，残りの4匹は，ケージの中でのみ飼い運動量を規制した（運動規制群）。

尿量測定は，測定時の条件を，運動測定群と，運動規制群と同じにする目的で，1週間に1日，8匹を同時に同型のメタボリックケージに移し，1日尿中蛋白量を測定した。

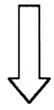
結果



表の如く，折線は，運動測定群4匹の各々の1日尿中蛋白量の経過である。点々のゾーンは，運動規制群の4匹の1日尿中蛋白量で，標準偏差を上限，下限に取った。

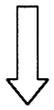
- 1) 運動測定群と運動制限群の2群の間には，運動後の尿蛋白排泄量に有意な差はなかった。
- 2) 運動測定群の中で比較的良く走った $1787\text{m}/1\text{日}$ ， $2785\text{m}/1\text{日}$ のラットと少ししか走らなかった $497\text{m}/1\text{日}$ ， $910\text{m}/1\text{日}$ のラットの間には，2カ月間の運動期間後の尿蛋白排泄量に有意の差は認めなかった。

今回の実験に関する限り運動が腎炎ラットの蛋白排泄量の増悪因子になるとは，必ずしも言えなかった。今後更に実験を重ねて，検討したい。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



慢性腎炎の運動管理については、まだ不明な点が多い。近年、ある程度の運動は、必ずしも慢性腎炎へ悪影響はおよぼさないとも言われだしている。

そこで我々は、腎炎ラットの運動測定を行い、腎炎にどの様に運動が影響するかを検討している。アミノヌクレオシド腎炎(ネフローゼ症候群 FGS)のモデルを用いて若干の結果を得たので報告する。